















平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年次	回数	60回	時間数	120時間
科目名	生活支援技術Ⅰ	授業の方法	演習	実技	実務経験の有る教員による科目	<input checked="" type="radio"/> 介護福祉士
授業の到達目標						
尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる知識や技術について習得する。						
授業の概要						
①基本的な介護技術におけるそれぞれの意義と目的の理解 ②さまざまな日常生活場面での観察の視点を養い、説明が出来る ③介助におけるポイントや留意点をふまえ、安全で正確な介助を実施できる ④その時の状況や個別性の応じて支援方法を適切に判断、選別する						
授業計画						
第1回	生活支援技術オリエンテーション(自立支援)					
第2回	ベッドメーキングの意義と目的、留意点					
第3回	ベッドメーキング(具体的注意点 コーナー)					
第4回	ベッドメーキング(具体的な注意点 シーツのしわ)					
第5回	ベッドメーキング(まとめ)					
第6回	ボディメカニクス					
第7回	体位変換(移動、移乗)の意義と目的、留意点					
第8回	体位変換(水平移動)					
第9回	体位変換(仰臥位 側臥位)					
第10回	体位変換(まとめ)					
第11回	移動における福祉用具の理解と歩行介助(平地)					
第12回	移動における福祉用具の理解と歩行介助(段差)					
第13回	中間まとめ					
第14回	車椅子の基本理解					
第15回	車椅子の基本操作					
第16回	車椅子の応用操作					
第17回	車椅子の操作(屋外等)					
第18回	移乗介助の基本動作					
第19回	移乗介助の応用動作					
第20回	移乗介助の様々な方法					
第21回	移乗介助のまとめ					
第22回	身だしなみを整える意義と目的、留意点					
第23回	身だしなみの介助					
第24回	衣服着脱の意義と目的、留意点					
第25回	衣服着脱の介助					
第26回	食事の意義と目的、留意点					
第27回	食事介助					
第28回	口腔ケアの意義と目的、留意点					
第29回	口腔ケアの介助					
第30回	まとめ					



平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	I 年次 2年次	回数	60 回	時間数	120 時間
科目名	生活支援技術Ⅱ	授業の方法	演習 実技	実務経験の有る教員による科目	○ 介護福祉士	
授業の到達目標						
1年で習得した基礎知識及び技術を活かして、介護実践の場において個別性に応じた対応ができるように安定した技術と応用的技術を身に付けることができる。また、介助における留意点やその根拠を明確に理解し、自分の言葉で説明ができるようになる。						
授業の概要						
①生活の様々な場面を想定し、基本留意事項をふまえた安定した介助ができる。 ②基本的生活支援技術をふまえ、状況に応じた応用技術を展開する事ができる。 ③介護の留意点やその根拠について自分の言葉で説明する。						
授業計画						
第1回	生活を理解する視点					
第2回	家庭生活の営みとは					
第3回	生活設計の考え方					
第4回	食生活の基本知識					
第5回	献立のたて方					
第6回	食品の購入と選択、食品衛生・調理の基本					
第7回	食品の調理性					
第8回	高齢者及び障害のある人の栄養と食事					
第9回	調理実習(日常食)①					
第10回	調理実習(日常食)②					
第11回	自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 調理①					
第12回	自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 調理②					
第13回	自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 調理③					
第14回	家事支援の意義と目的、留意点					
第15回	家事支援における 家事の介助の技法 調理①					
第16回	家事支援における 家事の介助の技法 調理②					
第17回	自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 洗濯①					
第18回	自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 洗濯②					
第19回	自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 掃除・ごみ捨て①					
第20回	自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 掃除・ごみ捨て②					
第21回	自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 掃除・ごみ捨て③					
第22回	自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 掃除・ごみ捨て④					
第23回	自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 掃除・ごみ捨て⑤					
第24回	自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 掃除・ごみ捨て⑥					
第25回	自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 裁縫①					
第26回	自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 裁縫②					
第27回	自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 衣類・寝具の衛生管理①					
第28回	自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 衣類・寝具の衛生管理②					
第29回	自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 買い物					
第30回	自立に向けた家事の介護 家事の介助の技法 家庭経営・家計の管理					

## テキスト

介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新・介護福祉士講座8 生活支援技術III」

## 授業時間外での学習

授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。

## 成績評価の方法・基準

前期後期の定期試験で、履修範囲について実技試験と筆記試験を行う。

評価は、100点満点をもって表し60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。







平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年次	回数	15 回	時間数	30 時間
科目名	介護総合演習 I	授業の方法	演習	実務経験の有る教員による科目	<input checked="" type="radio"/> 介護福祉士	

#### 授業の到達目標

介護実習の教育効果を上げるために、学内において準備・実習先への事前挨拶・介護実習中の個別指導などを行う

#### 授業の概要

- ①介護実習の意義と目的を説明することができる
- ②介護実習を行う施設等の概要について説明できる
- ③実習における心構えや基本的態度を身に付け、それぞれを説明できる
- ④体験を通して成果と課題を明確にし、報告できる。

#### 授業計画

- |      |                                  |
|------|----------------------------------|
| 第1回  | 実習施設について、事前調査し、実習の目的を明確にする。      |
| 第2回  | 実習施設について、事前調査し、実習の目的を明確にする。      |
| 第3回  | 自分なりの実習の具体的な目標を定める。              |
| 第4回  | 自分なりの実習の具体的な目標を定める。              |
| 第5回  | 実習先の事前挨拶に出向き、打ち合わせを行う。           |
| 第6回  | 実習先の事前挨拶に出向き、打ち合わせを行う。           |
| 第7回  | 実習先の事前挨拶に出向き、打ち合わせを行う。           |
| 第8回  | 実習先での打ち合わせ内容から、実習前に準備しておくことを纏める。 |
| 第9回  | 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)  |
| 第10回 | 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)  |
| 第11回 | 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)  |
| 第12回 | 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)  |
| 第13回 | 実習後に報告会を実施。他の実習先の報告も踏まえ、学習を深める。  |
| 第14回 | 実習後に報告会を実施。他の実習先の報告も踏まえ、学習を深める。  |
| 第15回 | 実習の目標と達成事項を確認し、次の実習の目標を定める。      |

#### テキスト

介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座10 介護総合演習・介護実習」

#### 授業時間外での学習

授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。

#### 成績評価の方法・基準

前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。試験結果にレポートの評価を加えて成績評価を行う。

評価は、100点満点をもって表し60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年次	回数	15 回	時間数	30 時間
------------------	------	-----	----	------	-----	-------

科目名	介護総合演習Ⅱ	授業の方法	演習	実務経験の有る教員による科目	<input checked="" type="radio"/> 介護福祉士
-----	---------	-------	----	----------------	--

#### 授業の到達目標

介護実習の教育効果を上げるために、学内において準備・実習先への事前挨拶・介護実習中の個別指導などを行う。

#### 授業の概要

- ①介護実習の意義と目的を説明することができる
- ②介護実習を行う施設等の概要について説明できる
- ③実習における心構えや基本的態度を身に付け、それぞれを説明できる
- ④体験を通して成果と課題を明確にし、報告できる。

#### 授業計画

- 第1回 実習施設について、事前調査し、実習の目的を明確にする。
- 第2回 自分なりの実習の具体的な目標を定める。
- 第3回 実習先の事前挨拶に出向き、打ち合わせを行う。
- 第4回 実習先の事前挨拶に出向き、打ち合わせを行う。
- 第5回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)
- 第6回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)
- 第7回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)
- 第8回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)
- 第9回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)
- 第10回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)
- 第11回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)
- 第12回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)
- 第13回 実習後に報告会を実施。他の実習先の報告も踏まえ、学習を深める。
- 第14回 実習後に報告会を実施。他の実習先の報告も踏まえ、学習を深める。
- 第15回 実習の目標と達成事項を確認し、次の実習の目標を定める。

#### テキスト

介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座10 介護総合演習・介護実習」

#### 授業時間外での学習

授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。

#### 成績評価の方法・基準

前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。試験結果にレポートの評価を加えて成績評価を行う。

評価は、100点満点をもって表し60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	2年次	回数	15 回	時間数	30 時間
------------------	------	-----	----	------	-----	-------

科目名	介護総合演習Ⅲ	授業の方法	演習	実務経験の有る教員による科目	<input checked="" type="radio"/> 介護福祉士
-----	---------	-------	----	----------------	--

#### 授業の到達目標

介護実習の教育効果を上げるために、学内において準備・実習先への事前挨拶・介護実習中の個別指導などを行う。

#### 授業の概要

- ①介護実習における自己課題と到達目標を明確に持ち実践できる
- ②介護実習の多様な現場について概要や、そこでの介護福祉士の役割を理解する。
- ③実践の振り返りをとおして成果と課題について考察する。
- ④体験を通して、職業倫理や介護観を養い、のべることができる。

#### 授業計画

- 第1回 実習施設について、事前調査し、実習の目的を明確にする。
- 第2回 自分なりの実習の具体的な目標を定める。
- 第3回 実習先の事前挨拶に出向き、打ち合わせを行う。
- 第4回 実習先の事前挨拶に出向き、打ち合わせを行う。
- 第5回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)
- 第6回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)
- 第7回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)
- 第8回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)
- 第9回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)
- 第10回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)
- 第11回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)
- 第12回 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)
- 第13回 実習後に報告会を実施。他の実習先の報告も踏まえ、学習を深める。
- 第14回 実習後に報告会を実施。他の実習先の報告も踏まえ、学習を深める。
- 第15回 実習の目標と達成事項を確認し、次の実習の目標を定める。

#### テキスト

介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座10 介護総合演習・介護実習」

#### 授業時間外での学習

授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。

#### 成績評価の方法・基準

前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。試験結果にレポートの評価を加えて成績評価を行う。

評価は、100点満点をもって表し60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	2年次	回数	15 回	時間数	30 時間
科目名	介護総合演習IV	授業の方法	演習	実務経験の有る教員による科目	<input checked="" type="radio"/> 介護福祉士	

## 授業の概要

①介護実習における自己課題と到達目標を明確に持ち実践できる

## 授業の概要

- ②介護実習の多様な現場について概要や、そこでの介護福祉士の役割を理解する。
  - ③実践の振り返りをとおして成果と課題について考察する。
  - ④体験を通して、職業倫理や介護観を養い、のべることができる。

## 授業計画

- |      |  |
|------|--|
| 第1回  | 実習施設について、事前調査し、実習の目的を明確にする。            |
| 第2回  | 自分なりの実習の具体的な目標を定める。                    |
| 第3回  | 実習先の事前挨拶に出向き、打ち合わせを行う。                 |
| 第4回  | 実習先の事前挨拶に出向き、打ち合わせを行う。                 |
| 第5回  | 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)        |
| 第6回  | 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)        |
| 第7回  | 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)        |
| 第8回  | 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)        |
| 第9回  | 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)        |
| 第10回 | 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)        |
| 第11回 | 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)        |
| 第12回 | 学校に戻り、実習中の課題や内容について指導を受ける。(帰校日)        |
| 第13回 | 実習後に報告会を実施。他の実習先の報告も踏まえ、学習を深める。        |
| 第14回 | 実習後に報告会を実施。他の実習先の報告も踏まえ、学習を深める。        |
| 第15回 | 4回の実習報告から学び得たことをまとめ、現場で活かしたい自分の学びを纏める。 |

## テキスト

介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座10 介護総合演習・介護実習」

## 授業時間外での学習

授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。

## 成績評価の方法・基準

前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。試験結果にレポートの評価を加えて成績評価を行う。

評価は、100点満点をもって表し60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年次・2年次	回数	30 回	時間数	290 時間
------------------	------	---------	----	------	-----	--------

科目名	介護実習 I	授業の方法	実習	実務経験の有る教員による科目	<input checked="" type="radio"/> 介護福祉士
-----	--------	-------	----	----------------	--

#### 授業の到達目標

利用者の生活の場である多様な介護現場において利用者理解を中心とし、利用者とのコミュニケーションの実践、他職種協働の実践、介護技術の確認をおこなうことができる。

#### 授業の概要

- ①利用者及び職員に適切な挨拶をすることができる
- ②利用者の反応に応じて基本的な態度で話を聞く事ができる。
- ③利用者の生活や環境に关心を持ち、かかわりを通して心身の特徴を説明する事ができる
- ④安全・安楽に基本的介護技術を体験し、適切に振り返りができる。

#### 授業計画

第1ステップ実習	5日間
第2ステップ実習	17日間
第3ステップ実習	22日間

#### テキスト

介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座10 介護総合演習・介護実習」

#### 授業時間外での学習

授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。

#### 成績評価の方法・基準

レポート、出席及び外部の評価を加えて成績評価を行う。

評価は、100点満点をもって表し60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	2年次	回数	30 回	時間数	160 時間
科目名	介護実習 II	授業の方法	実習	実務経験の有る教員による科目	<input checked="" type="radio"/> 介護福祉士	

#### 授業の到達目標

利用者の生活の場である多様な介護現場において利用者理解を中心とし、利用者とのコミュニケーションの実践、他職種協働の実践、介護技術の確認をおこなうことができる。

#### 授業の概要

- ①利用者及び職員に適切な挨拶をすることができる
- ②利用者の反応に応じて基本的な態度で話を聞く事ができる。
- ③利用者の生活や環境に关心を持ち、かかわりを通して心身の特徴を説明する事ができる
- ④安全・安楽に基本的介護技術を体験し、適切に振り返りができる。

#### 授業計画

第4ステップ実習 17日間

#### テキスト

介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座10 介護総合演習・介護実習」

#### 授業時間外での学習

授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。

#### 成績評価の方法・基準

レポート、出席及び外部の評価を加えて成績評価を行う。

評価は、100点満点をもって表し60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年次	回数	15 回	時間数	30 時間
科目名	こころとからだのしくみ I	授業の方法	講義 実習	実務経験の有る教員による科目		

#### 授業の到達目標

介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。

#### 授業の概要

- ①介護サービスを提供する際に必要な観察力と判断力の根拠となる人間の心のしくみの基礎を学ぶ
- ②自分が「こころ」の問題によく面した時の対応を学び、説明ができる。

#### 授業計画

- 第1回 健康とは何か
- 第2回 心のしくみを理解する(人間の欲求)
- 第3回 心のしくみを理解する(自己実現と尊厳)
- 第4回 心のしくみを理解する(脳)
- 第5回 心のしくみを理解する(認知)
- 第6回 心のしくみを理解する(記憶)
- 第7回 心のしくみを理解する(思考)
- 第8回 心のしくみを理解する(学習)
- 第9回 心のしくみを理解する(感情)
- 第10回 心のしくみを理解する(動機付け)
- 第11回 心のしくみを理解する(適応)
- 第12回 対人関係(印象、好意)
- 第13回 こころの発達とライフサイクル
- 第14回 ストレスとメンタルヘルス
- 第15回 カウンセリングと心理療法

#### テキスト

介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座11こころとからだのしくみ」 中央法規2019年

#### 授業時間外での学習

授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。

#### 成績評価の方法・基準

前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。

評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	1年次 2年次	回数	30 回	時間数	60 時間
科目名	こころとからだのしくみⅡ	授業の方法	講義 実習	実務経験の有る教員による科目		

## 授業の到達目標

こころとからだの両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、根拠となる知識を理解できる。

授業の概要

- ①こころとからだのしくみを理解する事ができる。
  - ②心身の状態が日常生活にどのように関与しているのかそのしくみについて説明ができる。
  - ③利用者の状態にあった適切な介護方法を説明できる。

## 授業計画

- |      |                          |
|------|--------------------------|
| 第1回  | こころのしくみ(欲求、自己実現)         |
| 第2回  | からだのしくみ(基礎)              |
| 第3回  | からだのしくみを理解する(脳、神経)       |
| 第4回  | からだのしくみを理解する(感覚器、骨)      |
| 第5回  | からだのしくみを理解する(内臓 消化器)     |
| 第6回  | からだのしくみを理解する(呼吸器 循環器)    |
| 第7回  | 移動のしくみ(移動のしくみ)           |
| 第8回  | 移動のしくみ(身体機能)             |
| 第9回  | 移動のしくみ(精神機能)             |
| 第10回 | 移動のしくみ(変化の気づき・対応)        |
| 第11回 | 身じたくのしくみ(身じたくのしくみ)       |
| 第12回 | 身じたくのしくみ(身体機能、精神機能)      |
| 第13回 | 身じたくのしくみ(変化の気づき・対応)      |
| 第14回 | 食事のしくみ(食事のしくみ)           |
| 第15回 | 食事のしくみ(身体機能)             |
| 第16回 | 食事のしくみ(精神機能)             |
| 第17回 | 食事のしくみ(変化の気づき・対応)        |
| 第18回 | 排泄のしくみ(排泄のしくみ)           |
| 第19回 | 排泄のしくみ(身体機能)             |
| 第20回 | 排泄のしくみ(精神機能)             |
| 第21回 | 排泄のしくみ(変化の気づき・対応)        |
| 第22回 | 入浴、清潔の保持のしくみ(入浴のしくみ)     |
| 第23回 | 入浴、清潔の保持のしくみ(身体機能)       |
| 第24回 | 入浴、清潔の保持のしくみ(精神機能)       |
| 第25回 | 入浴、清潔の保持のしくみ(変化の気づき・対応)  |
| 第26回 | 睡眠のしくみ(睡眠のしくみ)           |
| 第27回 | 睡眠のしくみ(身体機能、精神機能)        |
| 第28回 | 睡眠のしくみ(変化の気づき・対応)        |
| 第29回 | 死にゆく人に関連したしくみ(身体機能、精神機能) |
| 第30回 | 死にゆく人に関連したしくみ(連携)        |

## テキスト

介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座11こころとからだのしくみ」 中央法規2019年

## 授業時間外での学習

授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。

## 成績評価の方法・基準

前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。

評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	2年次	回数	15回	時間数	30時間
科目名	こころとからだのしくみIII	授業の方法	講義 実習	実務経験の有る教員による科目		

#### 授業の到達目標

こころとからだの両面から利用者の状態を見て、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、根拠となる知識を理解できる。

#### 授業の概要

- ①心身の状態が日常生活にどのように関与しているのかそのしくみについて説明ができる。
- ②利用者の状態にあった適切な介護方法を説明できる。
- ③体験した事例を根拠に分析、考察し次の支援につながる力を身に付け、実践できる。

#### 授業計画

- |      |                            |
|------|----------------------------|
| 第1回  | こころとからだのしくみ I の復習(総論)      |
| 第2回  | こころとからだのしくみ I の復習(各論)      |
| 第3回  | 移動のしくみ(身体機能、精神機能) 事例       |
| 第4回  | 移動のしくみ(変化の気づき・対応) 事例       |
| 第5回  | 身じたくのしくみ(身体機能、精神機能) 事例     |
| 第6回  | 身じたくのしくみ(変化の気づき・対応) 事例     |
| 第7回  | 食事のしくみ(身体機能、精神機能) 事例       |
| 第8回  | 食事のしくみ(変化の気づき・対応) 事例       |
| 第9回  | 排泄のしくみ(身体機能、精神機能) 事例       |
| 第10回 | 排泄のしくみ(変化の気づき・対応) 事例       |
| 第11回 | 入浴、清潔の保持のしくみ(身体機能、精神機能) 事例 |
| 第12回 | 入浴、清潔の保持のしくみ(変化の気づき・対応) 事例 |
| 第13回 | 睡眠のしくみ(身体機能、精神機能) 事例       |
| 第14回 | 睡眠のしくみ(変化の気づき・対応) 事例       |
| 第15回 | 死にゆく人に関連したしくみ 事例           |

#### テキスト

介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座11こころとからだのしくみ」 中央法規2019年

#### 授業時間外での学習

授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。

#### 成績評価の方法・基準

前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。

評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。







平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	2年次	回数	9回	時間数	13時間
科目名	医療的ケア実施の基礎	授業の方法	講義	実務経験の有る教員による科目		

#### 授業の到達目標

医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。

#### 授業の概要

1. 医療的ケアに関して、チーム医療と連携の必要性が説明できる。
2. 安全に痰の吸引や経管栄養を提供することの重要性を説明できる。
3. 感染予防について説明できる。
4. 健康状態の把握ができ、急変状態の対応と報告ができる。

#### 授業計画

- |     |                         |         |
|-----|-------------------------|---------|
| 第1回 | オリエンテーション               | 医療的ケアとは |
| 第2回 | 保健医療制度とチーム医療            |         |
| 第3回 | 安全な療養生活(医療的ケアの安全な実施)    |         |
| 第4回 | 安全な療養生活(救急蘇生)           |         |
| 第5回 | 清潔保持と感染予防(感染予防)         |         |
| 第6回 | 清潔保持と感染予防(清潔・消毒・滅菌)     |         |
| 第7回 | 健康状態の把握(身体・精神の健康)       |         |
| 第8回 | 健康状態の把握(バイタルサイン 急変時の対応) |         |
| 第9回 | 健康状態の把握(バイタルサイン測定)      |         |

#### テキスト

介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座15 医療的ケア」 中央法規2019年

#### 授業時間外での学習

授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。

#### 成績評価の方法・基準

前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験を行う。

評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	2年次	回数	13回	時間数	19時間
科目名	喀痰吸引	授業の方法	講義	実務経験の有る教員による科目		

#### 授業の到達目標

喀痰吸引に必要な 人体の構造と機能、小児の吸引、急変状態への対応など、喀痰吸引を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を習得する。

#### 授業の概要

- 1.呼吸のしくみと痰の吸引について説明できる。
- 2.安全で適切な痰の吸引の手順が説明できる。
- 3.痰の吸引を必要とする人の、日常生活の変化に気づき、医療者に報告することができる。

#### 授業計画

- 第1回 呼吸のしくみとはたらき
- 第2回 喀痰吸引
- 第3回 人口呼吸器と吸引
- 第4回 子どもの吸引
- 第5回 説明と同意
- 第6回 呼吸器系の感染と予防説明
- 第7回 喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認
- 第8回 口腔内吸引の実施手順
- 第9回 鼻腔内吸引の実施手順
- 第10回 気管カニューレ内吸引の実施手順
- 第11回 口腔内吸引の実施
- 第12回 鼻腔内吸引の実施
- 第13回 気管カニューレ内吸引の実施

#### テキスト

介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座15 医療的ケア」 中央法規2019年

#### 授業時間外での学習

授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。

#### 成績評価の方法・基準

前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験、実技試験を行う。

評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	2年次	回数	12回	時間数	18時間
科目名	経管栄養	授業の方法	講義	実務経験の有る教員による科目		

#### 授業の到達目標

経管栄養に必要な人体の構造と機能、小児の経管栄養、急変状態への対応など、経管栄養を実施するために必要な基礎的知識と実施手順を習得する。

#### 授業の概要

1. 経管栄養のしくみについて説明できる。
2. 安全で適切な経管栄養の手順を説明できる。
3. 経管栄養を必要とする人の、日常生活の変化に気づき、医療者に報告することができる。

#### 授業計画

- 第1回 消化器系のしくみとはたらき
- 第2回 経管栄養
- 第3回 経管栄養実施上の留意点
- 第4回 子どもの経管栄養
- 第5回 経管栄養に関する感染と予防
- 第6回 説明と同意
- 第7回 急変・事故発生時の対応
- 第8回 胃ろうによる経管栄養の実施手順
- 第9回 経鼻による経管栄養の実施手順
- 第10回 胃ろうによる経管栄養の実施
- 第11回 経鼻による経管栄養の実施
- 第12回 報告および記録 経管栄養のまとめ

#### テキスト

介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座15 医療的ケア」 中央法規2019年

#### 授業時間外での学習

授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。

#### 成績評価の方法・基準

前期後期の定期試験で、履修範囲について筆記試験、実技試験を行う。

評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。

平岡介護福祉専門学校 介護福祉科	開講時期	2年次	回数		時間数	2 時間
科目名	医療的ケア 演習	授業の方法	演習	実務経験の有る教員による科目		

#### 授業の到達目標

医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。

#### 授業の概要

- 1.喀痰吸引 演習
- 2.経管栄養 演習
- 3.救急蘇生 演習
- 4.演習

#### 授業計画

- |      |                        |
|------|------------------------|
| 第1回  | 喀痰吸引・経管栄養 演習(5人×2グループ) |
| 第2回  | 喀痰吸引・経管栄養 演習(5人×2グループ) |
| 第3回  | 喀痰吸引・経管栄養 演習(5人×2グループ) |
| 第4回  | 喀痰吸引・経管栄養 演習(5人×2グループ) |
| 第5回  | 喀痰吸引・経管栄養 演習(5人×2グループ) |
| 第6回  | 喀痰吸引・経管栄養 演習(5人×2グループ) |
| 第7回  | 喀痰吸引・経管栄養 演習(5人×2グループ) |
| 第8回  | 喀痰吸引・経管栄養 演習(5人×2グループ) |
| 第9回  | 喀痰吸引・経管栄養 演習(5人×2グループ) |
| 第10回 | 喀痰吸引・経管栄養 演習(5人×2グループ) |
| 第11回 | 心肺蘇生 演習                |
| 第12回 | 心肺蘇生 演習                |

#### テキスト

介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士講座15 医療的ケア」 中央法規2019年

#### 授業時間外での学習

授業内容をノートにまとめ、復習を行うこと。

#### 成績評価の方法・基準

履修範囲について実技試験を行う。

評価は、100点満点をもって表し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

60点以上70点未満を可、70点以上80点未満を良、80点以上を優として成績表記を行う。